

## 2023年 4月～9月

1	<p><b>コーディネーショントレーニングの実際～からだの調整力を高めよう～</b></p> <p>リハビリテーション学科 理学療法学専攻 講師 菅野 智也</p>	<p>スポーツに必要なからだを上手に調整する能力(身のこなし)について説明し、実際のトレーニング法を紹介します。</p>	<p>施設 小学校 対象 学生 ZOOM対応 可</p>
2	<p><b>安全でけがのない学校生活を送るには</b></p> <p>リハビリテーション学科 理学療法学専攻 准教授 近藤 仁</p>	<p>成長期に起こりやすい代表的なけがの予兆や発生要因などを説明し、安心して体育および部活動を送るための知識や対応策を紹介します。</p>	<p>施設 小学校・中学校 高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 可</p>
3	<p><b>対象者の理解を深めるために</b></p> <p>リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授 石田 圭二</p>	<p>人を理解するとき様々な視点・枠組が存在します。大きく分ければ理解をする側の視点・枠組と理解される側のものであり、時にはその理解内容は対立することもあります。医療者は医学的な視点・枠組みが求められますが、それだけでは十分な対応に結びつくことができない場合が存在します。講座では人としての理解を進める方法について学生さんの臨床実習記録を基に対象者を理解する際の視点や枠組みに沿って整理を行い深めていきます。</p>	<p>施設 中学校・高校 対象 学生 ZOOM対応 可</p>
4	<p><b>障がいを乗り越える心理</b></p> <p>リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授 石田 圭二</p>	<p>けがや病気にかかった時、現在の医療では完治させることが困難で「障がい」が残存することが多くあります。リハビリテーションは「人間にふさわしい権利、資格の回復を回復させる」という意味を持ち、その一翼を担う作業療法の臨床場面では「障がい」を乗り越えようとする人の営みに会うこととなります。講座では学生さんの臨床実習記録や患者手記を読み解くことで、その力強い心の動きの理解を深めていきます。</p>	<p>施設 中学校・高校 対象 学生 ZOOM対応 可</p>
5	<p><b>子どもの学び～遊びと学習のつながり～</b></p> <p>リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 助教 村田 里佳</p>	<p>子どもたちは、いつの間にか言葉を覚えていきます。毎日の生活や遊びの中で見たこと、聞いたこと、感じたことを蓄えて、新たな場面で使えるようになっていきます。やがて就学する頃には、文字や数を覚えて学習活動が始まります。言葉や文字、数はどのように覚えていくのでしょうか。発達の土台となる認知機能に焦点をあて、発達過程と発達を支える「遊び」をご紹介します。</p>	<p>施設 未就学・小学校 中学校・高校 対象 未就学児・学生 保護者・教職員 ZOOM対応 可</p>
6	<p><b>好感の持てるコミュニケーションとは？～ヒトの音声情報の観点から～</b></p> <p>リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 講師 新谷 純</p>	<p>人と人はことばを使って話をしますが、コミュニケーションを印象づける重要な要素は、実はヒトの音声情報に含まれています。相手に与える印象は、話している内容や言葉遣いよりも「大きさ・高さ・速度」などの情報が影響していることがわかっています。より良い対人関係のために、音声という観点から、コミュニケーション能力について科学的知見を踏まえてお話しします。</p>	<p>施設 小学校・中学校 高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 可</p>
7	<p><b>学級活動で取り組む「こころげんキッズ学習」</b></p> <p>看護学科 講師 五十嵐 利恵</p>	<p>「こころげんキッズ」は、子どもたちの心の力をつけるためのコミュニケーション活動です。つらいとき・困っているときに、そのことを伝えられること、さらに、自分や友だちのよいところに気づけること、人の話をちゃんと聞けることは、子どもたち同士の間関係力アップにつながります。子どもたちの発達段階や学級の状況を考慮し、実践内容を教職員と一緒に考えていきます。教職員の方との事前打ち合わせ後、必要に応じて、担任とともに学級活動を支援いたします。</p>	<p>施設 小学校・中学校 対象 ①教職員 ②児童・生徒 ZOOM対応 ①可 ②不可</p>
8	<p><b>杉田玄白になって体の「かたちとはたらき」について考えよう～あたま・脳編～</b></p> <p>看護学科 教授 猪口 徳一</p>	<p>福井が誇る江戸時代の蘭学者、杉田玄白は解体新書をまとめ、日本の医学の発展に貢献しました。参加者が杉田玄白となって普段触れることのない体の内部について模型を使って調べます。そして、体の「かたちとはたらき」について一緒に考えてみましょう。今回はあたま・脳編です。</p>	<p>施設 小学校・中学校 高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 不可</p>
9	<p><b>チームで精神医療を行うということ</b></p> <p>看護学科 教授 小俣 直人</p>	<p>精神障がいや有する患者さんは、疾患ごとの様々な症状に加えて、生活上の支障や今後の回復など色々なことに悩んでいます。また、家族との関わりや経済的なことなど、非常に多様な問題を抱えています。本講座では、これらを解決していくためには、異なる職種や医療スタッフが連携・協働していくことが不可欠となっていること、更には、家族や患者本人も治療に加わっているという意識を持つことが必要であることを解説します。</p>	<p>施設 高校 対象 学生 ZOOM対応 可</p>

## 2023年 10月～2024年 3月

10	<p><b>綺麗な歩き方</b></p> <p>リハビリテーション学科 理学療法学専攻 准教授 藤田 和樹</p>	<p>歩行は生活と運動の基本です。正しく綺麗な姿勢で歩くにはどうすればいいか、歩行のメカニズムと姿勢を改善するトレーニング法について説明します。</p>	<p>施設 中学校・高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 可</p>
11	<p><b>日常生活における姿勢バランスと動作について</b></p> <p>リハビリテーション学科 理学療法学専攻 准教授 村田 寛一郎</p>	<p>日常生活における姿勢バランスおよび動作の特徴を力学的に考え、起こりうる身体への負担と動作の特徴との関係をお話しします。</p>	<p>施設 高校 対象 学生 ZOOM対応 可</p>

12	<p><b>対象者の理解を深めるために</b></p> <p>リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授 石田 圭二</p>	<p>人を理解するとき様々な視点・枠組が存在します。大きく分ければ理解をする側の視点・枠組と理解される側のものであり、時にはその理解内容は対立することもあります。医療者は医学的な視点・枠組みが求められますが、それだけでは十分な対応に結びつくことができない場合が存在します。講座では人としての理解を進める方法について学生さんの臨床実習記録を基に対象者を理解する際の視点や枠組みに沿って整理を行い深めていきます。</p>	<p>施設 中学校・高校 対象 学生 ZOOM対応 可</p>
13	<p><b>障がいを乗り越える心理</b></p> <p>リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授 石田 圭二</p>	<p>けがや病気にかかった時、現在の医療では完治させることが困難で「障がい」が残存することが多くあります。リハビリテーションは「人間にふさわしい権利、資格の回復を回復させる」という意味を持ち、その一翼を担う作業療法の臨床場面では「障がい」を乗り越えようとする人の営みに会うこととなります。講座では学生さんの臨床実習記録や患者手記を読み解くことで、その力強い心の動きの理解を深めていきます。</p>	<p>施設 中学校・高校 対象 学生 ZOOM対応 可</p>
14	<p><b>作業療法士が支える日常生活活動(ADL)とは？</b></p> <p>リハビリテーション学科 作業療法学専攻 助教 熊谷 のぞみ</p>	<p>日常生活活動(ADL)とは、生活を送る上で基本となる身辺動作のことです。この様々な動作や活動に支障がある場合、作業療法士がサポートをして、その人らしい生活を取り戻せるように支援していくこととなります。毎日の生活がどのような活動で成り立っているのか、一緒に考えてみましょう。またその活動に支障が生じたら、どのようにサポートしていくのか、作業療法士の視点からお話したいと思います。</p>	<p>施設 中学校・高校 対象 学生 ZOOM対応 可</p>
15	<p><b>人の生活を支える脳の仕組み～人体の精巧なメカニズムとリハビリテーション～</b></p> <p>リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師 酒井 涼</p>	<p>ひとの日常は脳の複雑な仕組みによって成り立っています。日常生活において脳はどんな機能を持ち、どんな役割を果たしているのか？そして脳に障害が起きるとどのような問題に直面するのか、実際のリハビリテーション場面や最先端の医療と合わせて、わかりやすくご紹介します。</p>	<p>施設 中学校・高校 対象 学生 ZOOM対応 可</p>
16	<p><b>声を分析して体調を評価する</b></p> <p>リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 教授 塩見 格一</p>	<p>最新の研究成果から「人間の音声を分析すれば、発話者の心身状態の評価が可能である!」と考えられる成果が得られています。この成果から、スマートフォンのアプリを利用して、誰でも簡単に日常的な自己管理が可能になっています。この技術について、その手法から現状までの成果と将来的な展望についてお話しします。</p>	<p>施設 小学校・中学校 高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 可</p>
17	<p><b>失語症～なぜ話せないの～</b></p> <p>リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 講師 高橋 宣弘</p>	<p>脳卒中(脳の血管がつまったり破れたりすること)により起こる障がいの中に失語症というものがあります。失語症は一般にあまり知られていない障がいですが、多くの方が抱えていることばの障がいです。この障がいの特性や、コミュニケーションの取り方などについて分かりやすくお話しします。</p>	<p>施設 中学校・高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 可</p>
18	<p><b>学校生活が楽しくなる睡眠の話</b></p> <p>看護学科 講師 藤本 ひとみ</p>	<p>自分の睡眠を見直してみると、学校生活が今より少し楽しくなるかもしれません。小学生(中学生、高校生など)に必要な睡眠時間、寝ている間に起こる体の変化、寝る前にはいけないこと、「ぐっすり眠る」、「すっきり起きる」方法などについてお話しします。</p>	<p>施設 小学校・中学校 高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 可</p>
19	<p><b>身近な感染予防；できていますか？正しい手指衛生～感染防止の基本は手洗いから～</b></p> <p>看護学科 教授 吉江 由加里</p>	<p>感染症は、ひとたび発生して拡大すれば個人の健康のみならず社会全体に深刻な影響を及ぼすおそれがあります。身近な感染症や、予防対策としての手洗いの効果、マスクの効果等についてお話しします。</p>	<p>施設 小学校・中学校 高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 可</p>
20	<p><b>臓器提供・臓器移植医療の話</b></p> <p>看護学科 教授 高山 裕喜枝</p>	<p>臓器移植を推進するお話ではありません。臓器移植を受ける人は移植することで幸せになりますが、臓器提供をする方にも意義があります。双方の思いを尊重し、幸せになる臓器提供・臓器移植について院内移植コーディネーターの経験も踏まえお話しします。</p>	<p>施設 中学校・高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 可</p>
21	<p><b>杉田玄白になって体の「かたちとはたらき」について考えよう～筋・骨格編～</b></p> <p>看護学科 教授 猪口 徳一</p>	<p>福井が誇る江戸時代の蘭学者、杉田玄白は解体新書をまとめ、日本の医学の発展に貢献しました。参加者が杉田玄白となって普段触れることのない体の内部について模型を使って調べます。そして、体の「かたちとはたらき」について一緒に考えてみましょう。今回は筋・骨格編です。</p>	<p>施設 小学校・中学校 高校 対象 学生・保護者 教職員 ZOOM対応 不可</p>
22	<p><b>子どもの具合が悪くなった時の対応について</b></p> <p>看護学科 助教 和田 奈々</p>	<p>ぐったりしている、熱がある、おなかが痛い、吐き気がある等、子どもの具合が悪い時、そのまま様子をみればいいのか、いつ受診すればいいのか、どのように看病すればいいのかがわからず、困った経験はありませんか？この講座では、子どもにもよくみられる症状とその原因を踏まえながら、症状に応じた対応についてお話しします。</p>	<p>施設 未就学 小学校(低学年) 対象 保護者・教職員 ZOOM対応 可</p>
23	<p><b>子どもに起こりやすい事故の予防と手当</b></p> <p>看護学科 教授 吉田 美幸 ※10月、11月のみ開催可</p>	<p>子どもの死亡原因では、「不慮の事故」が上位を占めており、子どもは一生の中で最も事故を起こしやすい年齢層です。子どもの健康を守るためには、事故を予防することが重要です。そこで、子どもの発達的特徴、それにともない起こりやすい事故とその予防・手当についてお話しします。</p>	<p>施設 未就学 対象 保護者・保育士 ZOOM対応 可</p>